（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	いるかくらぶBASE３			
○保護者評価実施期間	令和7年1月9日		～	令和7年2月14日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	29名	（回答者数）	27名
○従業者評価実施期間	令和7年1月9日		～	令和7年2月14日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5名	（回答者数）	5名
○事業者向け自己評価表作成日	年　月　日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者に対して個別に適切と思われる対応をしており、利用者に沿った支援及び指導が行われている。個別支援計画、モニタリングなどのアセスメントを、現状の中で十分に行っていると思われる。	利用者側からの目線で支援や指導を行うことを重視しており、職員からの視点のみにならないように十分に注意をし、配慮を行っている。	今後も、同様の方針で支援や指導を行っていく。利用者の特徴や特性の把握をより一層行っていき、利用者の生活に沿った支援や指導を行っていけるようにしたい。
2	利用者に対して多くの体験を行うことができるように、活動の種類を増やしている。屋内活動、屋外活動の両方を重視している。 活動の継続時間が短いことを考慮しながら、同一の活動が30分を超えないように配慮を行っている。体操活動は除く。	ルーティン活動を基本として、様々な活動が行えるようにしている。そのための情報収集や職員のアイデアの採用など、児童発達管理者の考え方のみにならないよう、注意をしている。	今後も、同様の方針で支援や指導を行っていく。
3	利用者が気軽にコミュニケーションをとることができるようにしている。利用者が「施設に来たい！」という思いが持てるよう、施設が居心地がいい場所になるように努めている。	職員が利用者に対して、正面からだけではなく、横並びに並んで関わることができるようにしている。同じ立場、同じ目線で活動を行ったり遊べたりするように配慮をしている。	今後も、同様の方針で支援や指導を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	様々なアイデアを出しているものの、活動に偏りがでてきていることは否めない。特に平日に関しては、ルーティン活動のみになっている。	平日の利用時間の短さや、職員間での活動やあそびに対する準備が足りていない。職員間での会議を充実させていく必要がある。	活動場所を含めて、従来に縛られない考え方に基づいて、活動やあそびが行えるようにしたい。
2	学年が多岐にわたっており、特に高学年の利用者に合わせた活動やあそびを行うことが少ない。そのため、高学年の利用者の施設離れが始まっている。	利用者数が多くなっていることから、年齢層が分かれてきている。新規利用者の学年が小さく、その人数が多いことからも、高学年の利用者が離れている要因ではないかと思われる。	施設ごとに、学年を分けていくこともよいかと思われる。それぞれの年齢に沿った活動を行いやすいようにしていく必要もあるかと思われる。曜日ごとに学年を分けることも検討していきたい。学年に応じた支援を行うため、集団支援と個別支援を状況に応じて行っていく。
3	活動が多岐にわたっているため、業務の内容と量が多くなってきており、職員の仕事量が大幅に増えている。現状では利用者の支援に大きな影響は出ていないものの、業務のスリム化、効率化が必要になるだろう。	職員間で様々なアイデアや利用者に対して充実した支援を行おうとしていることが要因であると思われる。それに対して、管理者が対応をし切れていないことも要因だろう。	現在の活動内容を維持するため、業務の振り分けやその内容を見直していきたい。